

SECOND
HAND

セカンド・ハンド通信

VOL. 2 1995年 6月25日

発行：ボランティアショップセカンド・ハンド

〒760 高松市田町12-4

☎0878-61-9928(FAX兼用)

5/27、セカンド・ハンド1周年を迎える!

記念イベントとしてインドネシア料理講習会を開催しました。

神戸ボランティア事情

セカンド・ハンドからキャンブ新神戸（JR新神戸駅ロータリー内で活動）に提供している軽トラックが、セカンド・ハンドのスタッフに代わって大活躍しているそうです。

当初、物資や食料を運ぶのに使われていた軽トラですが、現在は再建工事や家の修理のための道具や資材を乗せて走り回っています。まだまだ道路事情のよくない神戸の町では、軽トラは引っ張りダコのようです。



決算報告 ('95. 3/29~6/22)

収入

提供品、カンボジア・バングラディッシュ商品売上…1,369,570 円
 '95. 3. 28までの繰り越し……………1,533,459 円

支出

電話・通信費（セカンドハンド通信の送料を含む）……121,792 円
 水道・光熱費……………23,958 円
 カンボジア・バングラディッシュ商品仕入れ……………120,873 円
 店舗修繕費（雨漏り修理）……………51,500 円
 人件費（マネージャー給料）……………150,000 円
 雑費（印刷代・掃除機・FAX購入費など）……………64,590 円
 カンボジア語-英語辞典購入費……………30,606 円
 神戸に提供している車の税金……………8,000 円

571,319 円

現在の銀行預金高……………2,394,113 円

ご協力ありがとうございます。

カンボジア商品の紹介



*ワット・タン

ワット・タンは地雷で手足を失った人や、小児麻痺などで障害を持つ人の自立を支援しているNGO（非政府組織団体）です。義足を作ったり、リハビリを行ったり、技術を身につける場を提供しています。洋裁・木工・タイプ（クメール文字）のクラスがあり、収入につながる技術を身につけることを目的として6カ月間研修が行われます。

20年を越える内戦で、学校教育が滞っていたため、訓練生の中には文字の読み書きすらできない人が多く、自立後の商売に必要な英語やクメール語の読み書き、簡単な計算も教えられています。

6カ月の技術研修を終えると、6カ月間、技術向上のため有給制で商品を製作し、経営についても学びます。訓練終了後、6カ月間の売り上げ金は分配され、自分で商売が始められるようにミシンなどの機具も渡されます。

ワット・タンを訪れた時、全員が何らかの障害を持っていると聞かされ、正直「本当に？」と思いました。実際、見学してみると、義足で足踏みミシンを踏んでいたりと、両足のない人が、松葉杖を巧みに使って棚を作っていました。どの商品も、1つ1つ手作業で、全身で作られていました。商品については、皆で意見を出し合って工夫も重ねているそうです。また、お客様の要望もどんどん取り入れているそうです。

セカンドハンドに置いてある商品もそのようにして作られたものばかりです。

どうぞ、一度手に取って御覧下さい!! (瀬崎)



セカンド・ハンド スタッフ紹介

今回はマネージャーとして働いてくれている
中條雅代さんと、その娘、ひとみちゃんを紹介!!



ひとみちゃん

ひとみちゃん
お嬢さん!!
おまじないの商品を
ごめいばい下さい。

すっかりセカンド・ハンドのマネージャーが板についた中條さんとマスコットアイドル瞳ちゃん。実はその昔、中條さんはボディビルダーとして高松近辺ではブイブイいわしてたとか…。しかし、今やそんな面影もなく、子育てですっかりシェイプアップされたナイスバディーはとて一児のママとは思えない、羨ましい限りです。

そんな彼女の最近のお気に入りには近所の洋食屋さんの特製冷麺。具がふつうと違ってバラエティーにあふれ、ボリューム抜群だそうです。ごはんの話になると目を輝かせて「おそくが安くておいしいのよ」とか、いろいろためになる話を聞かせてくれるので、おもしろいっすよ。(徳)

セカンド・ハンド広場オープン!

店前に「セカンド・ハンド広場」という名称で掲示板が登場しました。イベントの案内や他のNGOの活動など、様々な情報をお知らせします。

皆様からの情報もお待ちしております。

WE NEED YOU!!

ボランティア・スタッフ募集!

1週間に2~3時間程度ボランティアしてみませんか?

「セカンド・ハンド」はボランティア・スタッフで運営されています。

店番、商品ディスプレイ、在庫管理、カンボジア商品等の仕入れ・発注
会計等の事務作業、衣類の手入れ、イベント企画・運営、広報活動、etc ...

得意な分野でお手伝いして下さい!

ボランティアできる時に、自由になる時間だけ提供して下さい。

WE NEED THE GOODS!!

商品を提供して下さい!

お中元、引き出物等で頂いたけど使わないもの、使っていたけど
必要なくなったもので、まだまだ商品価値があるもの、食器、日用品、
アクセサリ、バッグ、衣類等を無料で提供して下さい。

セカンド・ハンド通信を無料でお送りします

皆様に、決算報告・活動状況にいろんな情報を盛り込んで、三か月に一度お送り
します。皆様にお送りしたいのですが、送料の関係で希望される方だけに送らせて
頂きます。購読ご希望の方は恐れ入りますが、ハガキか電話でお申し込みください。

(〒・住所・氏名・電話番号・メッセージをお書き添え下さいませ)

宛先*〒760 高松市田町12-4 セカンド・ハンド

☎0878-61-9928(FAX兼用)

*セカンド・ハンド通信への皆様からの便利 お待ちしています!

＊一周年記念企画として行った「インドネシア料理」の中で、お好みの一品
かぼちゃとさつまいもを使ったデザート「コラック」をご紹介します!!

インドネシア料理にトライ!

コラック (Kolak)

材料: かぼちゃ

さつまいも

ココナッツ・ミルク

さとう

バニラ・エッセンス

①かぼちゃとさつまいもは皮をむいて一口大のサイコロに切っておく。

②適量の水で①を茹で、ココナッツ・ミルクを加えて火を弱める。

③分離しないように気をつけて混ぜ、砂糖を加える。

④さとうを加え、冷めてきたらバニラ・エッセンスで香りづけする。

⑤充分に冷やして、氷を入れて食べる。

料理講習会に参加して

磯部知恵子 (スタッフ)

「インドネシア料理ってどんなだろうね。」「食べたことないもんね。」などと話し
ながら、娘と参加した料理講習会。参加者が少なかったせいか、和気あいあいとした雰囲気
で、皆で作り方を見ながら、講師であるインドネシアからの留学生クリスティンさんの
指導を受けて作り始める。

にんにく、しょうが、赤とうがらしを刻むうちにかなりの香りに誘われて、会場の責任
者の方が、「何ができよんな?」と、のぞきに來られる。普段、使うことがほとんどない
ココナッツミルクの料理は、思っていたより美味だった。ナシゴレンはかなりの量の油を
使って炒めたが、意外にさっぱりした味だった。これも調味料のサンバル、ケチャップ、
マニスのせいかもしれない。但し、ごはんは日本米よりタイ米の方がベストだと思った。
デザートはよく冷やして食べると美味!どれも日本食にはない味のような気がしたが、
作り方は意外に簡単。暑くうっとうしい日に、チャレンジをしてみる価値は充分あり!
ピリリとしたスパイスの味で元気が出てくると思います。

ワイワイガヤガヤ楽しいひと時をありがとうございました。

簡単にリサイクル! のコートびり
(今回はラップの芯を使って写真立てを
作ります!!)



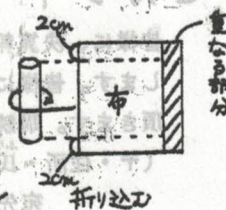
ラップの芯で写真立て

材料: ラップの芯

はぎれ

木工用ボンド

(乾くと透明になる)



作り方: ①芯を半分に切る。

②はぎれをちょうどいい大きさに切る。

③芯全体に布を貼る。

④乾いたら写真の長さ+5mmに切りこみを入れる。



—カンボジアにはなぜ障害者が多いの?—

「それは、国内に多く残る地雷が1つの原因です。」

地雷は地中に埋められた兵器で、踏むと爆発する。一度埋められた地雷は、半世紀の間、その攻撃能力を失わないという。

20年を越える内戦の間に埋められた地雷は、未だカンボジア全土に1,000万個以上残されている。3年前に国連の援助で作られた地雷処理専門機関CMAC（カンボジア地雷処理センター）では年間10億円をかけて3年間で3万個の地雷を処理してきたが、このペースだと100年かかっても地雷はなくならないと言われている。

カンボジア西部のバタンバン州にあるバタンバン州立病院には、毎日地雷で傷ついた人が運ばれてくる。裏庭には手術で切り落とされた手足が5,000本以上埋められているそうだ。セカンドハンドのスタッフがスタディー・ツアーでバタンバン州に行ったとき、この病院の隣を通った。現地に住む人が「毎日、多い時には一日に何人も地雷で手足を吹っ飛ばされて担ぎこまれるんだよな、子供も…。まったく惨い話だよ」と言っていたのを思い出す。



地雷のサイン



去年、プノンペンのリハビリテーションセンターを訪れた。太陽の光がうっすらと差し込む、およそ治療室とは思えないような部屋で、ドクターが少女に義足をつけていた。5〜6才位の可愛らしい顔立ちをした女の子だった。初めて義足をつけたのか、かなり痛がって泣いていた。初めてつける時はとても痛いという。少し離れた場所から、その姿を写真に収めようとレンズを覗きこんだ。この現実を写真で伝えようと思ったのだが、付き添っていた母親の鋭い視線が心に突き刺さり、シャッターを押すことができない。

ピンクのフリルのついたワンピースに身を包んだ彼女の将来をレンズ越しに想った。自分の足で飛び回る自由を奪われてしまった彼女。障害者として生きていくことになった彼女にふりかかってくるであろう不利。地雷はいとも簡単に人の将来を変えてしまう。

地雷は戦略的に有効な場所、例えば毎日の暮らしに利用される道や肥沃な田畑に多く埋められている。そのため、何の罪もない農民や子供達から無差別に手足を奪うことになる。今も毎日約300人の犠牲者が出ている。

そんな恐怖に怯えながらも村人たちは生活するために自分の土地から離れられない。地雷が埋まっているかもしれない田畑を耕すしか、生きていく方法のない人がある。あるTV番組でカンボジアの老人がこんなふうに語っていた。「仏様を信じていても地雷は関係なく爆発するのです。地雷のある所に行けば、いくら祈っても助けられません」

悲しいことに、今も地雷は埋め続けられている。(新田)

カンボジアの子供達に絵本を送ろう！

カンボジアでは内戦時代に、多くの本が焼き捨てられたために「絵本」を見たことがない子供達が大勢います。

そんな子供達へ、家庭で眠っている本にカンボジア語（クメール語）を貼付してプレゼントしようという活動が全防災主催で行われています。

セカンド・ハンドでまとめて送りますので、もしお家に絵本がありましたらご協力下さい。

*尚、翻訳をつける関係上、絵本は指定がありますので、必ずお問い合わせ下さい。

セカンド・ハンドに、絵本のリストのコピーがあります。

書き損じハガキを集めています！

丸亀ユネスコ協会では書き損じハガキで国際協力をしようと、キャンペーンを行っています。古くなった魅しうハガキ、書き間違えて投函しなかったハガキや使い道のない年賀状など、消印のない官製ハガキであれば結構です。

一枚の書き損じハガキが、文字を学べる施設の建設や、指導者の育成、教育資材の資金になります。眠っているハガキがないか、机の中を確かめてみましょう！

セカンド・ハンドの入り目に赤いミスマールボックスがありますので、その中に入れるか、直接丸亀ユネスコ協会までお持ち下さい。

※ テレカマでも集めています
詳しいことは
セカンド・ハンドまで
お問い合わせ下さい。

♪お客様からのお便り

§日本人は（日本人だけではなく、お金持ちの国の人に）よく、いい物を捨てるので、あなたの店は結構大切だと思います。がんばって下さい。

高松市室新町 織比恵ファベルさんより

§丸亀から来ております。二度ほど閉店していた事があり、残念な思いになりました。休業の予定表などありましたら、年に2回くらいお知らせ下さいませんか。

丸亀市津森町 芥 恵美子さんより

● 申し訳ありませんでした。現在スタッフ不足の為、日曜日は休業しておりますが、定休日という訳ではありません。年中無休（正月除く）の方針ですが今後スタッフの都合で急に閉店する場合もあるかもしれません。ご了承下さい。...

§発展途上国への援助が、必ずしも現地の住民まで及んでいないのではないのか、ということとは以前からよく言われており、どうしてもその疑念は消えません。そこで私もできるだけ直接援助の方に協力したいと思ってきました。現在留学生の世話等もあって時間的にはなかなかお店の手伝いまでできませんが、その分、多くの人にセカンドハンドの活動を知って頂くよう口コミでPRに努めようと思っています。

高松市木太町 山田美智子さんより